

3月のHUG だより

情報提供者：やましろ小児科 山城武夫

今月のテーマ：小児科医からのお母さん、お父さんへのメッセージ

新型コロナ（COVID-19 感染症）感染が2020年1月に日本で報告されて、早2年が経ちました。世界での感染者は昨年同時期の1億9百万人から4億1千7百万人に、日本では39万人から、なんと416万人になっています。世界の死者は585万人、日本では2万1千人です。子どもの感染者数も統計は現時点で正確な数字は出ておりませんが、増加の一途をたどっています。全面休園した保育園の数は2月10日時点で、全国では741園です。感染者数が増加すれば、軽症と報告されている子どものコロナ感染ですが、絶対数が増加すれば重症者も当然出てきます。現にICUに入院する子ども達の報告も複数報告されています。

感染症は「うつらない、うつさない」が重要です。

そのためには、何度も報告されていますが、3密の回避、正しい手洗い、正しいマスクの着用です。しかし、家庭での子どもの生活、保育園、幼稚園、小学校での集団生活での感染症予防のこの原則はなかなか実施が困難です。それでも出来る限り努力して、良い光を見出したいものです。



私は「HUG だより」で、子育ては五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）をフルに活用してください、「乳児

は肌を離すな、幼児は肌を離しても手を離すな、児童・生徒は手を離しても目を離すな、思春期は目を離しても心（ここでは対話）を離すな」と書いてきましたが、コロナ禍ではステイホームで戸外での遊び、体を接触させるようなスポーツ、遊び、声を掛け合うこと、合唱をすることなどなど如何に解決するか話し合ひましょう。また、ゲーム、SNSのネット依存にも注意しましょう。



子どもにとってより安全なワクチン、治療方法（薬剤、免疫療法等）の開発が待たれます。正確な情報を得るために、かかりつけの先生、厚生労働省のコロナ関係資料、日本小児科学会のホームページ（<https://www.jpeds.or.jp/>）を利用してください。